

第4号

南栗遺跡 発掘たより

2023年1月6日発行

◆南栗遺跡の発掘調査、無事終了しました。

昨年の5月23日（月）に開始した中部縦貫自動車道（松本 JCT）建設に伴う南栗遺跡の発掘作業は、12月23日（金）に無事終了しました。12月からは、遺構調査と重機による調査区の埋め戻しを並行して行い、現在の調査区は埋め戻しが終了しています。

今回の発掘たよりでは、猛暑を乗り切り松本盆地を囲む山が雪化粧となるまで行った6ヵ月間の発掘調査を振り返ることとします。

◆空中写真の撮影

12月2日（金）に、調査区の空中写真を撮影しました。

1985・86年に埋文センターが長野自動車道建設に伴う発掘調査を行い、今回はその長野自動車道の西側隣接地を調査しました。また、長野自動車道の調査では、南栗遺跡の集落（南側）は鎖川の氾濫などで削られたと推測されています。下の写真では、現在の鎖川は蛇行して流れる様子がわかります。



ドローンによる撮影風景



写真1 南栗遺跡 空中写真（北西方向から松本市南部・塩尻市方向を臨む）

◆ 予想以上に発見された奈良・平安時代の竪穴建物跡

長野自動車道 調査区

今回の調査課題は、①奈良・平安時代の集落の南限を明らかにすること、②長野自動車道の西側における遺構密度を捉えることでした。

調査区の南端付近で確認された流路跡は鎖川の氾濫によるものと推測され、集落の南限を示すものと考えられます。また、調査区には34軒の竪穴建物跡が分布することから、調査区のさらに西側まで集落が広がる可能性が高いことがわかりました。検出遺構のなかには、一辺7mを測り、6基の柱穴がある奈良時代の竪穴建物跡があります（写真2）。



南栗遺跡 遺構配置図



写真2 奈良時代の竪穴建物跡



写真3 調査区を縦断する溝跡

◆ 調査区を南北に縦断する溝跡

平安時代の竪穴建物跡と重複する溝跡が発見されました（写真3）。竪穴建物跡の埋没後に構築されたものですが、深さは約2mを測り、中世の館跡の堀跡を想起する規模です。屋敷地などを区画する溝と推測されます。

◆ 埋文センター今昔

現在、調査現場（発掘調査事務所）と埋文センターとの通信・連絡は、遺跡の調査担当者が常備する携帯電話で行っています。37年前、長野自動車道の調査では、無線機を搭載した公用車を各現場に配備し、無線機から聞こえる声が職員に聞こえるように、現場の横に公用車を置いていました（写真4）。形は変わっても、埋文センターでの通信方法は、時代とともに変わっています。



写真4 北栗遺跡の調査風景

長野県埋蔵文化財センター 南栗遺跡班
担当：河西克造/平林 彰/大竹憲昭
携帯：070-4132-8528
メール：maibun@naganobunka.or.jp
HP：https://naganomaibun.or.jp